

こども食堂の多面的効果の構造把握

滝口沙也加・田中未来・上田賢悦・Karahan Mizgin・清野誠喜
(宮城大学・(株)久世・秋田県立大学・新潟大学大学院・昭和女子大学)

背景

- こども食堂の開設が相次いでいる
- こども食堂の研究は、(1)施設の運営実態、(2)こども食堂の認知・イメージ、そして(3)こども食堂の有する効果、に大別できる。このうち、こども食堂の効果については、それらが多様性をもっていることが指摘されるにとどまり、その定量的な把握や、多様な効果間における関係性の検討は不十分である

目的・方法

- こども食堂が有する多面的効果の定量的評価を行い、その効果間における関係性について明らかにする
- 千葉県内の4箇所のこども食堂(図1のA及びBに該当する自治体より抽出)を対象に、各食堂のスタッフ3名(計12名)へのヒアリング及び質問紙調査を実施(得られたデータをDEMATEL法により解析)
- なお、こども食堂における想定される効果は図2・注の12項目を設定した

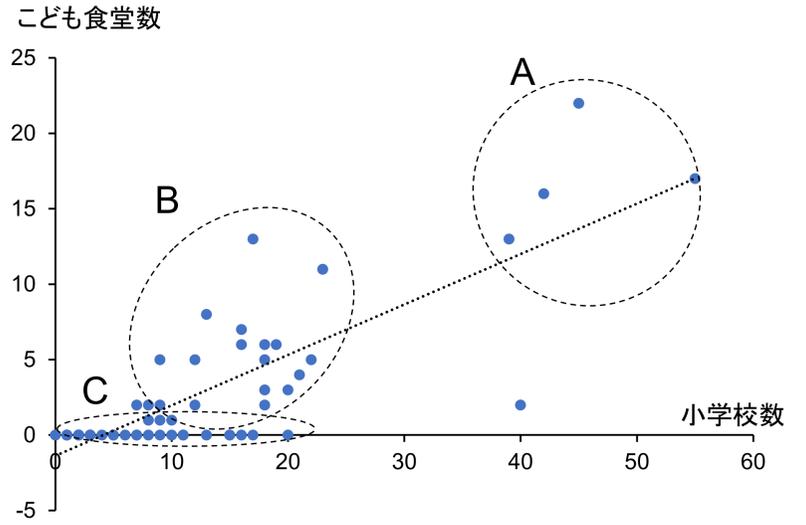


図1: 各自治体の小学校数とこども食堂数(千葉県)

結果

①こども食堂における効果

多くの項目で「効果がある」と評価され、また「効果の大きさ(効果をスコア表示したもの)」では、“地域の人々が集まれる場所になる”や“子どもたちが色々な経験をする”などが高くなっている

②効果間における関係

こども食堂は、“1.地域の人々が集まれる場所になる”ことにより、“9.保護者の負担軽減につながる”への直接的、ないしは間接的な(“6.子どもたちが色々な経験をする”や“8.家庭における子育ての支援ができる”を介した)影響を与えている

また、“1.地域の人々が集まれる場所になる”は、“10.母子家庭の支援ができる”にも影響している(図2)

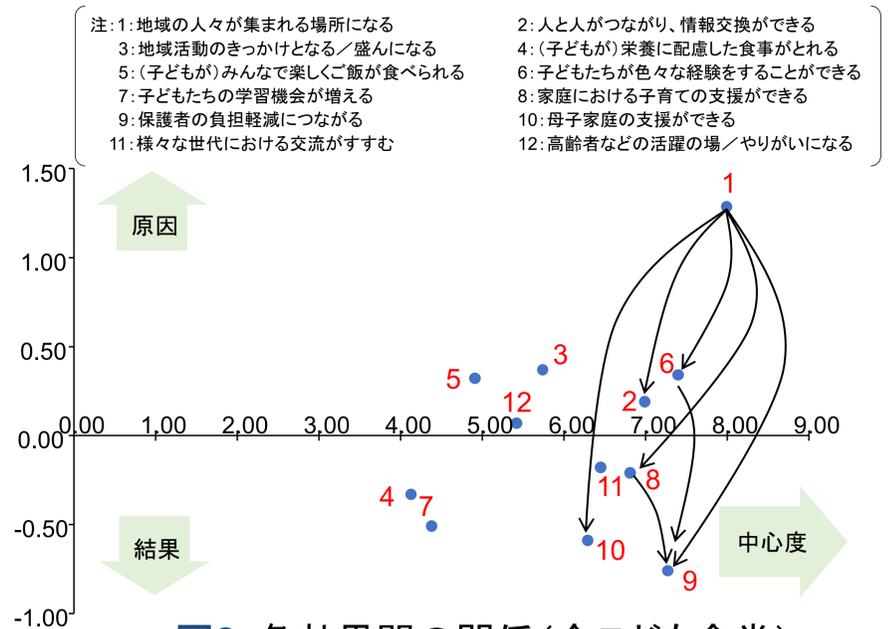


図2: 各効果間における関係(全こども食堂)

注1: 横軸は中心度(各要素との関連の強さ)、縦軸は影響度(原因と結果)を意味する。
注2: 項目間における関係がとくに強いものを“線”で結んでいる。

③各こども食堂における効果間における関係

個別のこども食堂においては、上記で指摘した効果を基本(共通)とし、その他の効果が追加的に生み出されている(表1)

- A: 「子どもたちの経験」
- B: 「楽しい食事」と「高齢者の活躍の場」
- C: 「楽しい食事」「子どもたちの経験」「子どもたちの学習機会」
- D: 「子どもたちの学習機会」

表1: 各こども食堂における効果間における関係(原因と結果)

	原因	結果
こども食堂A	1. 地域の人々が集まれる場所になる 6. 子どもたちが色々な経験をする	9. 保護者の負担軽減につながる
こども食堂B	1. 地域の人々が集まれる場所になる 3. 地域活動のきっかけとなる／盛んになる 5. (子どもが)みんなで楽しくご飯が食べられる	9. 保護者の負担軽減につながる 12. 高齢者などの活躍の場／やりがい、になる
こども食堂C	1. 地域の人々が集まれる場所になる 5. (子どもが)みんなで楽しくご飯が食べられる 11. 様々な世代における交流がすすむ	2. 人と人がつながり、情報交換ができる 6. 子どもたちが色々な経験をする 7. 子どもたちの学習機会がふえる
こども食堂D	1. 地域の人々が集まれる場所になる 7. 子どもたちの学習機会がふえる	8. 家庭における子育ての支援ができる 9. 保護者の負担軽減につながる 10. 母子家庭の支援ができる

注: 各こども食堂について図2と同様の分析を行い、その結果についてまとめたもの。

考察

- 中心的な効果は、「地域の人々が集まれる場所になる」ことで、(地域の)「保護者の負担軽減につながる」ということ
- そして、上記を基本(共通)としたうえで、各こども食堂においては、その他の効果が追加的に生み出されている
- こども食堂の多面的な効果は、各運営組織の目的やその組織構造と対応し、その発現も可変する